



あ る 集 い

150年ぶりの

しんじよみこし

生田大海夏祭り神女神輿

はばたけ！生き生き生田の杜

「はばたけ！生き生き生田の杜」と銘打ち毎年恒例の夏を彩る生田大海夏祭りが8月3日から5日までの3日間盛大に神戸市中央区・生田神社（加藤隆久宮司）にて行われた。その中で、本年は8月の4日に神輿を船に乗せて海上を巡り、船上で航海の安全又海運繁栄を祈願する、「船渡御」の神事が江戸時代末頃以来150年ぶりに復活し、厳かに行われた。8月4日は生田神社内に御鎮座される神戸港の守り神として篤い信仰を受けている「大海神社」の例祭日である。神輿の巡幸路は、大海神社を出発してハーバーランドから遊覧船に乗り、神戸港から明石海峡大橋付近にかけて、海上を巡幸し、三宮・一の鳥居から再び大海神社へ還御するという流れである。

今回の神輿の大きな特色は、担ぎ手が全て10代後半から20代前半の元気溢れるうら若き女性による神女神輿であるという点にある。揃いの法被姿の神女達は「ヨイ

「シヨ」の掛け声で神輿を担ぎ、「ワッショイ・ワッショイ」と大きな声でハーバーランドモザイク前を練り歩いた。次に、豪華遊覧船コンチエルト号の甲板に神輿を乗せ、海上渡御の中頃、明石海峡大橋付近にて海上安全・海運繁栄の祈願祭が執り行われた。最後に三宮センター街南、一の鳥居から大海神社まで神輿を担ぎ練り歩き宮人となった。船渡御に参加した神女達は「神輿を担ぐのは初めてで重かったが、いい思い出になった。潮風が気持ち良く、最高の気分であった。又儀式の神秘的な雰囲気を感じた」等感想を口にしていた。

神輿を担ぐという初めての体験の中、夏の暑さにも負けずに力をお任せ、一つのことを成し終えたという充実感が奉仕した神女達全員を包んでいた。

〈生田神社権柄宜 安部初男〉

■生田大海神社夏祭奉賛会
078・321・3851



あ る 集 い

今、北野は盛り上がっています

北野商業響働コミュニティ(K,M,R,C)

この写真は北野商業響働コミュニティ(K,M,R,C) 役員のパーティの時、撮ったものです。場所は北野クラブ、夏の暑さも忘れてテラスで夜景を見ながらビア・パーティーを行いました。10月18日(金)「KITANO SOCIAL CLUB PARTY」打ち合わせ(前祝い?)の為、集まりその後メンバーの方々と交え大いに飲み食いし、交流を図りました。

北野商業響働コミュニティでは今、新役員に若手を登用しています。時代の変化とともに立地、環境の良さだけでは人は集まらず、初期に北野にあったようにユニークな人材、お店を誘致して頂くことが必要であることを再認識しました。本日、集まったメンバーはいずれも劣らぬツワモノ揃いです。ビルのオーナー、エステシャン、ヘアスタイリスト、レストランオーナー、アロマセラピスト、オーダーメイドシューズ職人、インテリア・雑貨オーナー、ブティックオーナー、ブライダル関連など職業は様々です。北野のイメ

ジをあげ大人が楽しめる街にしていきたいと考えています。横のつながりを大切に、ホスピタリティの精神でお客様を迎え、良いお店を紹介しあって満足度を上げてもらいたいものです。その為、このようなパーティーを2ヶ月に一度行っています。また今年も、去年大人気だった「KITANO SOCIAL CLUB PARTY」をパワーアップして開催する予定です。

自分自身の手でネットワークをいかに、必要以上にお金をかけず、しかしかっこいいパーティーにしたいと思っています。雑誌、テレビ、新聞などにも掲載し、2度楽しめるステータス性の高いイベントになるでしょう。もちろん神戸っ子さんにも載せてもらいます。皆が役者になって夢をみてもらいたいと思います。これからの北野は「大人の遊べる街」になるでしょう。皆様も乞御期待を。

〈MATTOTTI 岩高哲也〉

■KITANO SOCIAL PARTY
事務局 CAT WALK 岩高
078・271・1173

甲陽音楽学院「バークリーウィーク」レセプション



(上) レセプションで紹介されたバークリーの教授陣たち(下) 3日間のクリニックには多数の学生たちが参加



ユーモアたっぷりチャーミングなドナ・マクエルロイ先生によるヴォーカル・インプロヴィゼーション。即興演奏でのヴォーカルの楽器としての可能性に焦点をあてたクリニック



(右) 甲陽音楽学院の菅内孝憲学院長があいさつ
(中) ご自身も音楽好きという瀬区の小川区長(写真中央)もレセプションに参加
(左) レセプション会場で演奏する甲陽音楽学院の学生

「バークリーウィーク(BIWN)・サミットが、

続いて、甲陽音楽学院の菅内孝憲学院長から「バークリー・インターナショナル・ネットワーク

が直接レッスンをを行うもの。クリニックに先駆けて、8月21日、小川雄三瀬区長や音楽関係者を招き、瀬区民ホールでレセプションパーティーが開催された。「毎年夏には日本の学生たちとふれあえるのが楽しみで、8月のスケジュールはいつもあけている」とラリー・モンロー教授があいさつ。

3 Day Clinic」は、第一線で活躍するプロのミュージシャンでもあるバークリーの教授が直接レッスンをを行うもの。

「ヤズ・ロック・ポップスなどのコンテンツポラリミュージックを中心とした音楽学校、甲陽音楽学院は、毎年夏に、提携校であるアメリカ・ボストンのバークリー音楽大学(日本人では秋吉敏子や小曾根真などが卒業した)の教授陣を招いて、学生との交流会やセミナー、コンサートなどを開催している。中でも「Berklee 3 Day Clinic」は、第一線で活躍するプロのミュージシャンでもあるバークリーの教授が直接レッスンをを行うもの。

などの幅広い内容のレッスンを提供された。最後は教授陣と生徒たちによるジャム・セッションが行われ、今年も充実した3日間のクリニックだった。

世界で活躍するプロのミュージシャンと関連して、神戸で何かイベントなどが企画できないかとの声もあがっているとのこと、2年後が楽しみである。

3 Day Clinic」は、第一線で活躍するプロのミュージシャンと関連して、神戸で何かイベントなどが企画できないかとの声もあがっているとのこと、2年後が楽しみである。

2004年に神戸で開催される」との発表があった。BIWNは、バークリー音楽大学を核にした、コンテンツポラリミュージックの音楽教育のレベルアップと音楽文化の振興をめざす世界的な組織。このBIWNのサミットが、2004年に甲陽音楽学院を幹事校として、神戸で開催されることが決定した。アメリカ、イタリア、ギリシャに次いで開催される。

2004年、バークリー・インターナショナル・ネットワーク神戸大会開催が決定

松迺家 創業八十五周年記念パーティ



8

月2日、神戸ポートピア
ホテル大輪田の間で、神

戸の格式済ある老舗料亭「松迺家」が創業85周年記念パーティを開催。各界の著名人など、400人が集った。パーティーは、松迺家が4代目の鶴殿麻里絵さんにバトンタッチされるまでの85年の歴史を30分間で綴ったビデオを放映してスタート。このビデオは3代目の洋子さん（現在、東京の広告宣伝制作会社の代表）が企画制作したもの。ほかにも、若柳吉金吾師の「松」の舞いや、麻里絵さんが会場をまわってコメントをもらうなど、盛大な楽しい神戸の夜となった。

初代・しづさんが創業し、2代目札榮さんから洋子さん、そして4代目麻里絵さんというところで、お客様も年代が幅広くさまざま。笹山幸俊前神戸市長、柏井紙業柏井健一氏、兵庫信用金庫園田正和理事長。そして今回のために東京からかけつけた日本電気の関本忠弘氏、パンダの山科誠氏、ロフトの安森健氏、また地元の日本銀行神戸支店長大久保裕晴氏、神戸税関長の二宮洋二氏、日本経済新聞神戸支社長佐々木邦佳氏、書家望月美佐さんなどなど。24歳の麻里絵さんの若いパワーで「松迺家」も新しい時代を迎えた。

化100周年

——市民たちの手によって復活した六甲山の緑——

特集 ① 六甲山緑化ものがたり

緑豊かな憩いの場として親しまれている六甲山は、100年前の先人たちによって木々が植えられ、緑化された山。一進一退しながら進められた緑化の歴史を振り返る。

山火事や伐採で 荒れ果てた六甲山

「私は瀬戸内海の海上から六甲山の禿山を見てびっくりした。はじめは雪がつもっているのかと思っただ。」明治14年に神戸港に寄港した植物学者、牧野富太郎博士がこのように記しているように、明治初期の六甲山は大部分がはげ山であった。

これは、一説には、秀吉による大阪城築城の際、石垣に使用するため六甲山よりたくさん石材が伐出され、その代償として「六甲の樹木伐採勝手たるべし」との布令が出されたことに由来するとも伝えられる。以後、六甲山では燃料や田畑の肥料などにするための木や草が多く刈り取られ、また、乾燥しやすい気候から山火事も多かった。

もともと、風化作用に弱い御影石から成り立つ六甲山では、いったん土がむきだしになると土壌が流れ出してしまうため緑の回復は難しく、山々の荒廃は江戸時代から進んだ。明治の初期には、木は一本もなく、丸裸の状態だったようだ。

明治35年本格的な 植林事業開始

六甲山への植林は、本多静六博士という人物の指導で始まった。明治35年11月、再度山周辺から行われた植林事業は、上水道整備のための水源づくりや土砂流出を抑える目的であったが、同時に、たくさんの樹木が混在する林を創り、市民の森林リクリエーションの場として利用することなども視野に入れた事業であった。これが、現在の美しい森林が形づくられるのに重要な背景となる。人の手によって作られた森の移り変わりが、写真を撮るなどして定期的に記録されているのも、本多博士の指導によるものである。

さて、大規模な造林事業は明治期でほぼ一段落したものの、山火事による焼失、戦後の乱開発など、森林の保全・育成は一筋縄ではいかなかった。

しかし大正期以降も、行政や市民の努力によって緑化が続けられ、一進一退しながらも六甲山は緑を取り戻していった。中でも、神戸緑化協会、六甲をみどりにする会などの市民運動が大きな力となった。

明治36年



1868年開港当時の神戸港と六甲の山並み(イラストレイテッド・ロンドン・ニュース)

緑化・緑地保全
の歴史



六甲山緑

昭和41年以降、神戸市では大面積の造林を含む青山緑化事業新たに展開した。昭和46年からは「市域の7割緑地保全、市街地の3割緑化」を目標とした「グリーンコウベ作戦」が開始された。

昭和13年の阪神大水害で、土石流やがけ崩れなどで死者616名の被害が出た六甲山では、内務省六甲砂防工事事務所が設置され、治山・砂防工事が進められている。予防治山・復旧治山・保安林改良などが、国・県・市の協力によってこれらの事業が推進されてきた。

レクリエーション利用もさかんな六甲山

私たちの身近なレクリエーションの場として親しまれている六甲山。その基礎を築いたのは、イギリス人貿易商のA・H・グループ。明治28年、グループは、それまでほとんど人が立ち入ることのなかった六甲山の三国湖畔に別荘を建て、ゴルフなど娯楽的なスポーツを展開した。以後も外国人たちによって登山クラブが設立され、地元市民にもハイキングが普及していった。

明治43年には関西初の登山団体、「神戸草鞋会」が創設された。

「神戸草鞋会」は、毎日登山やハイキングのほか、ハイキングコースの開拓、維持、改良にもつとめ、登山地図や機関紙を発行するなど登山の普及につとめた。これらの伝統は今でも毎日登山の団体等に引き継がれている。

一方、六甲山ではゴルフ場をケレンデとしたスキーや池でのスケートが、外国人や登山会のメンバー達によって、関西ではもつとも古く、大正初期から行われていた。昭和に入り、阪神電鉄が山上一帯を買収したのを皮切りに六甲山の山上開発が一気に加速。裏六甲・表六甲ドライブウェイの開通、ホテルの開業、六甲ロープウェイ、六甲ケーブルの開通など、

10年ほどの間に六甲山上は観光地として大きな賑わいを見せるようになった。阪神大水害での表六甲ドライブウェイの崩壊、第二次世界大戦中のロープウェイの撤去など苦境の時代を経たものの、六甲山牧場や森林植物園、布引ハーブ園など新たなレクリエーション施設が整えられ、市民をはじめ遠くからの観光客にも親しまれる六甲山として発展している。

参考文献Ⅱ六甲山緑化100周年記念
第一回市民懇話会資料

写真提供(航空写真)=六甲砂防工事事務所

大正2年



明治41年



明治37年



六甲山緑化100周年座談会

写真提供＝六甲砂防工事事務所

甲山の自然を守れ



安藤嘉茂さん

先人が夢見た緑の溢れる六甲山の雄姿。それから100年、六甲山は神戸市民のオアシスとなった。しかし問題も生じてきている。いまある六甲の自然を100年後の人たちに伝えるための様々な提言とアイデア

都会のオアシス 六甲山との関わり方

田辺 本格的に六甲に登りはじめたのは中学1年の頃からです。昆虫採集が好きで登りはじめたのです。大人になって歴史の勉強をはじめたときに、六甲の地名などを知っていることが随分役に立ちましたね。六甲山緑化100周年ということですが、六甲山と人との関わりを考えると2000年の歴史まで遡るのですよ。

安藤 六甲山緑化100周年には様々な思い入れがありますね。私自身、神戸生まれですから六甲は故里ふるさとの山です。六甲は四季折々の

表情を見せてくれますが、特に秋は美しい。100年経って、植樹した森も徐々に変わってきているようですね。もともとあった落葉樹が増えてきているのです。

堂馬 私は神戸に住んで30年ですが、安藤さんの話を聞いていると息子のことを思い出しました。家族にとっては神戸が故郷で、六甲山は故郷の山なのです。しかも六甲は震災を経て、復興と生活とともにしてきた大切な山です。

天川 私にとっての六甲山は本当に生活の一部ですね。ですから自然をそのまま残したいという気持ちと、自分の庭だという気持ちと同じぐらい強いのです(笑)。家から10分ほどで気持ちのいい場所にたどり着ける、神戸のオアシスだと思っていきたい気持ちは拭えません。それは100年先の人たちにも伝えていきたい。そして六甲に住んでいるということには、それだけの責任があるのだと思っています。

根岸 実は私は六甲登山歴は40年ほどになるのです。よちよち歩きの頃から、両親に連れられて登っていました。物心つく前からずっと関わってきている山なので、特



天川佳美さん

別な山ではないのです。六甲山には人の手が加わらない自然そのままの場所と、ちよつと入らせてもらえるように人の手が加わった場所両方があると思うのです。高齢者や障害者の方でも山を体験できる整備された地域と、手つかずの自然の両方が必要です。そのバランスの上で継続的に良い状態を保ってほしい。

脇阪 私は大阪生まれなのですが、小さい頃からカンツリーハウスにはよく来てましたね。阪神電鉄に入社して2年間は、カンツリーハウス、高山植物園、スキー場などを見てきましたが、定年を目前にしてまた六甲に戻ってきました。入社当時と比べると六甲の状況はかなり違う気がします。特に裏六甲の風景はいちばん変わりましたね。私は信州大学の学生時代に山や花の楽しみ方を学びました。正直言って、いまの六甲山は野鳥などの種類も多くなり淋しい

感じがします。そして自然の楽しみ方を知らない人が多い。保護すべき自然と開発の場のバランスがいちばん大切です。

渡辺 私は小学校の頃からそれほど意識せずに山と関わってきました。子供はただ冒険心だけで楽しめるのです。山を歩きながら、自らストーリーをつくって楽しめるのですよ。

**六甲山が抱える
問題点と解決への道**

田辺 もともと神戸にいる人ほど、いまの六甲の姿を絶賛していると思うのです。しかしいまの六甲は、よその有名な自然公園などとは明らかに違います。あまりにも人の手が入りすぎていますね。**根岸** でも人の手が入ることによって自然との距離は近くなっていますよね。高い山には行くだけで気持ちが良いものです。高齢者や歩けない人にもそういう気分は味



田辺眞人さん

六 と さ る ふ の 戸 神



後列左より
天川佳美 (市民まちづくり支援ネットワーク)
安藤嘉茂 (神戸市建設局長)
渡辺真理子 (こうべ森の小学校)
脇阪昭生 (六甲摩耶観光推進協議会会長)
前列左より
田辺眞人 (園田学園女子大学教授)
堂馬英二 (NPO法人 六甲山と市民のネットワーク)
根岸真理 (大阪YMACA 甲研修センター)

あわせてあげたい。

田辺 そういうことはゾーン別でやればいいのです。私自身にもジレンマはありますが、できる限り六甲山本体は手つかずのまま残ってほしいと思います。

渡辺 最近はまだでも歩く人が少ないです。歩かない人にとっては、車で山頂に登ってすぐに自然の疑似体験できることが良いのですよ。いまは車に頼り過ぎなので、すよ。

田辺 私は六甲山をこれ以上便利にする必要があるのだろうかと思うのです。車で行けるだけではなく、体が弱い人にはケーブルもあるのですから。いまある施設も自然に返すべき場所は返して、利用価値のあるところをうまく利用してほしい。

安藤 六甲は神戸の持つポテンシャルを象徴しているように思えます。もっと多重的に利用できると思います。

田辺 行楽に関して言えば、昭和40年代ぐらいまでは良いガイドブックがあり、神戸の人にとつても六甲山は目的地だったのです。それが一時からもっと遠いところが目的地となつていったのです。六甲全山縦走市民大会は世界に発信できることだと思っています。ですから体の弱い人のために横断コースをつくるなど、もっとアピールしていくべきですね。

渡辺 「再度山修法ヶ原にある「こうべ森の小学校」に大きなハンモックがあるのですが、そこに寝ころんだりお弁当を食べるだけで本当に気持ちがいいのです。修法ヶ原池をほんのちよつと上がったところにあるのですけどね。

天川 山麓に住んでいる人たちがどのように六甲山と関わっていく



堂馬英二さん



根岸真理さん

かが、今後重要なのだと思います。**田辺** 山麓での毎日登山は日本では他に例がありません。もともとは居留地のイギリス人がはじめたものです。神戸には長田と兵庫の境目には千里山はありません。山頂のレストランや廃屋も、再び開くのならば本当に良いものを少しだけにしてほしい。

脇阪 山頂に関しては本当に貧弱な気がしますね。建物ももつとお洒落になればいいと思います。規制が中途半端なようにも思いますが、個人の方が行う植樹のほとんどが、周りの景観と馴染んでいないのです。その辺りもちゃんと整理していかなければならないでしょう。

天川 山だけではなく市街地の街路樹もおかしいですよ。ここ数年は枝をばさばさと切られてしまっています。市民がもつとしっかりしなければいけないのだと思います。市民も行政も、自然を守る意

甲山の自然を守れ



脇阪昭生さん

識が希薄なのではないでしょうか。

安藤 都市景観指定地域がまちなかにはあるけど、山にはないので。そういったチェック機関は今後ぜひ必要だと思います。

脇阪 街路樹にしても住民の方から、落ち葉が多いなどの苦情が出ているから切られていくのでしょうか。

天川 庭がない人にとっては、街路樹の落ち葉を掃くのも楽しいものです。四季の移ろいを肌で感じる事が出来ますから。私は「落ち葉掃きたい(隊)」を提唱(?)しているぐらいです(笑)。

次の1000年に向けて 六甲山に託す夢

根岸 いろいろと意見を持つている市民もたくさんいると思うのです。何かを思っている市民のネットワーク、行政、学識経験者、地権者、4つのバランスが大事です。



秋のハーブ

セイジフェスティバル

平成14年9月10日(火)～11月24日(日)

講演会「阿部誠先生」
日時=10月5日(土)13:30～15:30
場所=森のホール
テーマ=「セイジ サルビアをよみじかに」

セイジ収穫祭
日時=11月23日(祝)・24日(日)
場所=セイジ園・中庭他
内容=セイジ刈取り、セイジクラフト、セイジワイン、ハーブティー

園地指導10月6日(日)10:00～
布引ハーブソサイティー会員対象

お問い合わせ…神戸市立布引ハーブ園 TEL.078-271-1131 ホームページアドレス <http://www.kobe-park.or.jp/herb/> E-mail webmaster@kobe-park.or.jp

市民のパワーをうまく活かせるようにしなければならぬ。企業にもお互いの力を合わせられる仕組みづくりが必要です。100周年をきっかけにこういったことを整備していきたいですね。

協阪 企業の立場からものと言うと、いまは六甲ケーブルも非常に厳しい状況です。活性化のためには自然との調和が必要です。無料展望施設やカフェなど構想はたくさんあります。将来的には空き山荘を利用した文化村構想が実現してほしいですね。

渡辺 私は六甲そのもののお洒落感が乏しいような気がするのです。いまの人はとてもマスコミに流されやすい。まち中でオープンカフェをやるのもいいけど、森の風なかでお茶を飲むのもいいと思うのです。こうべ森の小学校とYMCAやその他の六甲山関連のネットワーク化ができ、イベントや勉強会などができれば面白いと思います。

安藤 六甲山は神戸市民にとって癒しの場所です。ウィーンの森は空気を浄化するという意味で「ウィーンの肺」と呼ばれています。六甲山は「神戸の肺」です。いろいろな人々が、いろいろな手段、



渡辺真理子さん

目的で利用できるのです。この値打ちは他にはありません。「都市の森」なのです。さらなる活性化と自然保護を目指したいですね。

堂馬 「六甲山と市民のネットワーク」は、山と人をつなぐ接着剤が役割と考えていますが、最近モデルを示さなければならなくなってきました。私にとっての六甲山のコンセプトは「のんびり」「ゆっくり」「じっくり」です。山上で何もしないことにこそ価値があるのです。六甲は基本的に学習の場です。六甲山丸ごと生涯学習の場にしたいですね。観光の醍醐味は自然・人工・人情の美と言われます。六甲にいちばん足りないものは人情です。そしてそれは六甲山を楽しむ市民の間から生まれるものだと思います。

天川 私は以前休みの日にケーブルに乗ってひとりで山頂に登り、ホテルのロビーで本を読むのが好きでした。六甲山は家からすぐの

六 甲 山 の ふ る さ と 神 戸



オアシスです。これからの100年はそれをアピールしていきたいのです。たった100年しかない歴史だからこそ壊したくないのです。

田辺 六甲山も観光客自体は実はそれほど減っていないのです。みんな車で通り過ぎてしまうだけなのです。ここ数十年で六甲の自然は痩せてきています。個人的な夢として、山のこと自然のことを総合的に学べる場がほしい。六甲山は近代登山の歴史で見ても、とても大切な山です。ぜひとも保全してほしいですね。

六甲山緑化100周年記念イベント情報

六甲緑化100周年記念事業

①記念フォーラム

「六甲山の100年」そしてこれからの100年

開催日 11月30日(土) 13:00

場所 神戸産業振興センター(ハーランド)

記念講演(予定)

安藤忠雄(建築家)

星野知子(女優)

②「六甲山の自生植物」

開催日 11月10日(日)

場所 Y M C A 六甲研修センター/森林植物園

午前中 基調講演/午後 植物観察会(事前申込が必要)

六甲山緑化100周年記念展

「六甲山これからの100年」

開催日・場所

10月24日~29日 さんちか大ホール

11月1日~7日 デュオこくべ

市民公募写真・お宝展

今秋から今春にかけて、市内各所で市民のみなさんからご提供いただいた六甲山に関する貴重な資料を中心に展示します。資料をお持ちの方のご協力をお願いします。

六甲山緑化100周年記念植樹祭

来春3月頃に市内数ヶ所で多数の市民児童参加の植樹祭を実施します。明治時代の砂防植林の再現体験も検討中です。

その他、記念バッジを販売しています。記念誌の発行を予定しています。

市街地を守るための砂防と 安全で自然豊かな森づくり

今年には六甲緑化100周年です。緑化のなかでの砂防事業の歩みはどのようなものだったのでしょうか。

星野 明治中期の写真でも分かるように、六甲山はずっとはげ山だった時代があり、その後の、神戸市や兵庫県による植樹の時代があります。この間補助事業としての砂防事業も実施されてきました。

昭和13年には阪神大水害が発生し、大きな被害を受けたのですが、このころどの程度まで緑化が進んでいたかは、はっきりした記録が残っていません。戦後、進駐軍が撮影した航空写真が当時の唯一の資料と言つてよいのですが、これを見る限り植樹により緑化は進んでいたように思えます。



(右上)平成14年3月17日(日)親子植樹体験教室に参加の柳生 博さんとみなさん(中央上)六甲砂防工事事務所(中央下)空から見た六甲山と神戸(左)植樹体験中の親子

国土交通省近畿地方整備局六甲砂防工事事務所所長 星野和彦さんを訪ねて

未来へつなぐみんなの山・六甲

六甲山の災害の歴史と 砂防事業が果たす役割

明治初期、度重なる乱伐のため六甲山は荒れ果て、大雨の度に災害を引き起こしてきた。

1893年(明治28年)に砂防工事が開始され、約100年。六甲砂防工事事務所の役割を星野和彦所長に伺った。

植樹事業から砂防事業へと変わっていく経緯はどのようなものだったのでしょうか。

星野 兵庫県による補助事業としての砂防事業は、植樹事業と平行して行われ、砂防としても山腹工として、植樹を進めてきました。この様な中で昭和13年の災害を契機として、災害復旧と市街地の保全を目的とした砂防事業が直轄として強力に進められることになったのです。したがって、六甲砂防工事事務所では、植樹ではなく、主に市街地を土石流から保全することのできる。砂防堰堤などのコンクリート構造物を中心に整備してきました。その結果昭和42年の災害時には、昭和13年とほぼ同じ雨量だったにも関わら



六甲砂防工事事務所所長星野和彦さん

ず、人的被害は約5分の1に減少させることができました。これは昭和13年以降に造られた174基の砂防堰堤の効果です。

昭和42年以降の大きな災害となると、阪神淡路大震災になりますか。

星野 そうですね。ただ震災の場合、雨による災害とは違い土石流は発生せず、山崩れ対策がほとんどでしたね。

地震直後に崩れていなかったところが、しばらく経ってから崩れだすケースもありました。ですから崩れた箇所は災害復旧が必要でした。六甲砂防工事事務所と県が中心になって進めてきた震災対策も、おおむね完了したと言っても良いでしょう。



六甲山系から全国へ 広がるグリーンベルト整備事業

グリーンベルト整備事業はいつからどのようにはじめたものでしょうか。

星野 震災後に六甲山系からスタートし、その後全国に広まったのです。そもそもは震災による山崩れがきっかけだったのですが、開発が山麓からさらに山へと向かいつつある状況もありました。六甲の山際は、これ以上開発すべきではないというのが基本的な考え方です。斜面の安定を図り土砂災害の防止、森林環境の保全、自然と親しめる場の提供が目的となります。グリーンベルト事業は、市と県と国の3者が協力して進めています。今のところ六甲ではそれがうまくいっていると言えるでしょう。

市民からの声や、市民参加の取り組みはありますか。

星野 グリーンベルト事業と言えば、植樹と計画づくりの段階でも協力していただいています。ワークショップを開き意見を出してもらうことも

必要ですし、植樹に関しては地元の景観と自然保護を第一に考えたものとなっています。グリーンベルトは市民に親しまれる里山づくりを目指

行政と市民の意識統一が グリーンベルトの基本

星野所長から見た六甲はどのような印象ですか。

星野 私が六甲砂防工事事務所にはじめてきたのは、昭和53年のことです。砂防堰堤と流路工の設計・施工など、現場に出るの仕事が主でした。いまから25年前の話ですが、この頃すでにかなり開発が進んでいました。六甲アイランド事業がすでに始まっていたから、当時、川床などにはほとんど木が生えていなかった場所に行き行って見ると、自生した木が立派に育ち、砂防堰堤が見えないくらいになっているのです。植物の力は凄いなと思いましたね。常に土砂が流れている状態では、当然緑は育ちません。砂防事

すものです。里山である以上、自然のまま放置して置いてできるものではありません。この部分で市民の手が必ず必要となってくるのです。

業が良い方向に関わっているのだと思います。

六甲山は市民との密着が強い山だと思います。

星野 これだけ市街地に接しているところで、標高差900メートル級の山はあまりないとおもいます。これから100年のことを考えると、市民と行政とが六甲山の環境・防災・利用・学習について意識を高めていくことが重要だと思っています。緑化100周年事業もその役割を担うものです。グリーンベルト事業については、市民にとって永遠に守られる大事な財産であると考えて接していただければと思います。

日本一都会にある 国立公園

私にとって神戸は学生時代の4年間を過ごし、阪神大震災を経験した思い出深い土地である。その神戸に縁あって自然保護官として着任してまだ1年2ヶ月足らずではあるが、緑化100周年にあたり、国立公園六甲山の魅力について考えてみた。

六甲山は、我が国初の国立公園（昭和9年指定）の1つである瀬戸内海国立公園に昭和31年に編入された。これまで、若干の区域変更を経ながら、現在は神戸、芦屋、

西宮、宝塚の4市に跨る約6800ヘクタールが国立公園として指定されている。

都道府県庁所在地で国立公園を地域に含むのは12市。そのうち人口が100万人を超える大都市は札幌、神戸、広島のみ。なかでも県庁より直線距離にしてわずか1キロ少々のところには位置する神戸の六甲山は、まさに日本一都会にある国立公園といつてよい。

いわゆる毎日登山に始まり、ハイキング、クライミング、キャンプ、スキーまで、アウトドアリクリエーションの場として親しまれているほか、祠を抱き信仰の対象

六甲山＝「六甲さん」

文＝三宅雄士 環境省 神戸自然保護官事務所

となつているところも少なくない。神戸っ子にとって、六甲山から夜景を眺めるのは定番のデートスポットだ。都市に隣接し、地域住民に愛され、その生活に根ざした身近な自然、それが国立公園・六甲山の特徴であり、魅力であろう。市民が「六甲山」と言うとき、それは「六甲さん」と親しみを込めて呼んでいるように私には聞こえてならない。

先人の偉業に 感謝を

六甲山がかつて禿山であったとは、現在の緑豊かな姿からはわかり信じがたい。

現在のように我々が六甲山に親しむことができるのは、緑化に取り組んだ先人の地道な努力があるからにはかならない。六甲山緑化100周年にあたり、我々はまず彼らに感謝しなくてはならないだろう。そして、その努力を無駄にしないために、我々も努力をしなければならないと思う。

100年後の 六甲山のために

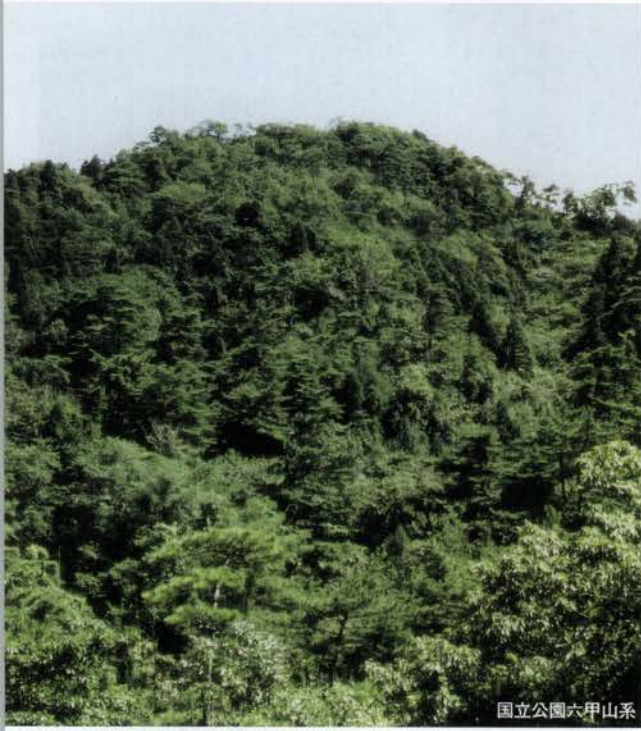
六甲山は緑豊かである。しかし、既に指摘されているところである

が、その質、つまり生態系は必ずしも健全とは言えないのが現状である。100年という長い年月をかけて六甲山に緑が蘇った。しかし、自然の営みという視点に立てば100年というのは、ほんのわずかな時間ではない。六甲山の自然はまだまだ独り立ちできていない。我々の手によって育てていかなければならない山なのである。

六甲山緑化100周年という記念すべき今年を、六甲山をより豊かな山にするための出発点と位置づけてはどうだろう。そのためには、六甲山の自然がどういう状態にあるのか、地域住民に広く知ってもらう必要があるだろうし、どのような六甲山を目指していくのか、皆で考えていく必要があるだろう。先人が築き上げた緑を次の100年で育てていくために。

とは言っても、言うは易く行うは難し。六甲山の自然を適切に維持管理していくには、多大な努力、知恵、資金が必要となる。

しかし、幸い六甲山はたくさん市民に愛されている。愛する「六甲さん」が元気のいい姿でいるのを皆で放っておくはずがないと思うのだが。



国立公園六甲山系

美しくかった 川の流れへの感慨

神戸生まれ神戸育ちの私はこの街から眺める美しい六甲山系の山並みがとても気に入っている。この六甲山系のやや東よりに美しい神奈備「金鳥山」が位置している。岡本の風格ある住宅街が建ち並ぶ一角から金鳥山方面への登山道があり、登って行くと眺望のよい風吹岩にたどり着く。

風吹岩方面には別ルートがあり、比較的よく知られている「魚屋道」という古道である。東灘の深江に鎮座する大日靈女神社の脇に魚屋道の石碑があり、ここから山側に向かって歩いて行くと住宅街のはずれから魚屋道の山道に入る。魚屋道は昔は有馬方面まで魚を運んだ道で、六甲山の自然を十分に堪能できる。道中のいたるところに巨岩がごろごろと転がっている川筋であるが、雨後でもない



どぶ返し池

生命の源六甲山

文＝文野佳門 「六甲山古跡研究会」幹事

六甲の自然環境を 守ろう

限り水はすっかり枯れている。昔は保久良神社東側の権現谷にある風呂川や、西側の八幡谷近辺に美しい川が流れていて滝もあつたが、新幹線トンネル貫通や様々な開発により環境破壊が進むにつれてどの川も枯れてしまったそうだ。何回も自分の目でそれを確かめてみたところ、昔はさぞ素晴らしい風景であつたと思われる滝跡もあり感慨深い思いがした。

魚屋道の急斜面を登って行くと風吹岩方面への分岐点に出る。「蛙岩」と呼ばれる大きな巨岩がある。この岩はその名が示すように蛙がちよこんと座つた形をしていて実に愛らしい。この分岐点で左に行けば風吹岩方面へと向かう魚屋道で、ここから先はほぼ一本道で勾配もゆるく迷うことなく風吹岩方面へ行くことができる。

蛙岩近くの山道から少し離れた藪の奥に幻想的な神秘性を醸し出している「どぶ返し池」がひっそりとあるので紹介したいと思う。この池は別名「どろかえしの沼」あるいは「みとろかえしの池」とも呼ばれ、池から黒い珠がでて

きたというロマンティックな伝説もある。京都に「深沼池」という有名な古池があり、「みとろかえしの池」の「みとろ」は「深い沼」という意味かもしれない。実際「どろ返し池」は「池」と呼ぶよりはむしろ「沼」と表現したほうが相応しい感じで三十畳程度の「泥で形成された沼」である。かなり古くには金鳥山近辺には池がいくつあつたそうだが現在では「どぶ返し池」のみが現存している。

我々の生活は文明発達の恩恵を受けてはいるが、環境破壊という代償がある点を決して見逃してはならず、私は生命の源六甲山の自然環境を守りたいと思う。「どぶ返し池」に行く度にその思いが強くなるこのころである。



蛙岩

第8回ウール&チーズフェスタがスタート！ 神戸市立六甲山牧場

スイスの牧場を思わせる場内には、130頭の羊を放牧しており、動物たちとのふれあいの場になっている。10月1日から11月30日までは「第8回ウール&チーズフェスタ」がスタート。10月の日曜、祝日は、ウールから毛糸を作る工程を実演、クラフト体験もでき、手芸品の数々も展示・販売する。11月の土・日曜、祝日には、世界のチーズをテーマに、週替わりで

世界各国のチーズの試食販売を実施。その他、「まきは夢工房」では、バター、アイスクリーム、チーズ作りなどの体験ができる他、神戸チーズ館では、チーズの製造工程が見学できるので、ぜひ訪ねてみたい牧場だ。

【営】9:00～17:00
 【休】火曜（祝日の場合は翌日）
 【料】大人350円、小・中学生200円
 【交通】スカイシャトルバス「六甲山牧場」下車すぐ
 ☎078-861-0280
<http://www.porket.ne.jp/~rokosan/>



場内には130頭の羊が放牧されている



10月からはいよいよ「ウール&チーズフェスタ」がスタート

いやしの山上紀行——六甲山・まや山施設案内

美しい音色が自然の中に響きわたる ホール・オブ・ホールズ六甲

約100年前、音楽をいつでも楽しめる手段として人々に親しまれてきた自動演奏楽器。時を超え、美しい音色が心に響きわたる。オルゴールの誕生は今から約200年ほど前。シリンドラー式とディスク式の年代物の貴重なオルゴールが多数紹介されている。

その他、20世紀前半に活躍していた自動演奏ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、アコーディオンな

ども展示。展示ホールでは、一日に7～8回、一時間に一度の間隔で、オルゴールや自動演奏楽器を紹介しながら実演している。ミュージアムショップには、アンティークなオルゴールやオリジナルCDなどがそろつ。

【営】9:30～17:00
 【休】木曜
 【料】大人1000円、小人500円
 【交通】山上バス「オルゴール館前」下車すぐ
 ☎078-861-1284
<http://www.hanshin.co.jp/hall/>



六甲山に広がるオルゴールミュージアム



(左)ディスク・オルゴール(1900年頃) (右)シリンドラー・オルゴール(1880年頃)



長谷池ほとりの紅葉



38種の3000本のカエデが紅葉する

「森林もみじ散策で」深まる秋を楽しむ 神戸市立森林植物園

「六甲の山並みと自然を背景に、端正な樹形をした針葉樹を林として植栽し、四季を彩る落葉樹や花木をそえる」という構想のもとに、1940年に創設された。総面積142・6ヘクタールの敷地には、日本の代表的な樹木や世界各国の樹木約1200種を原産地別に植栽している。

11月中は「森林もみじ散策」38種3000本のイロハモミジやハナノキ、フウ、コナラなどが紅葉し、色とりどりに深まる秋を楽しむことができる。期間中はおみじめぐりクイズや紅葉の散策会などのイベントがある。

- 【営】9:00～17:00（入園は16:30）
- 【休】水曜（祝日の場合は翌日）ただし、11月中は無休
- 【料金】大人300円、小人150円
- 【交通】神戸電鉄「北鈴蘭丘」駅下車、定時送迎バス10分（1時間に1本。三宮から市バス25系統40分）4月～11月の日曜、祝日のみ
- 【駐車場】500台
- ☎078・591・0253

のんびりとした山上旅行 まやビューライン夢散歩

平成13年に「まやビューライン夢散歩」として新しく生まれ変わった、まやケーブルとまやロープウェー。ケーブルは山小屋風の「摩耶ケーブル駅」から出発。緑が萌える中、30度近い急勾配をのぼるケーブルカーの窓からは、涼しい風と山の匂いが入り込んで、のんびりとした山上旅行が楽しめる。「虹の駅」でロープウェーに接続。勢いよく出発するロープウェーを降りてからは、六甲・摩耶スカイシャトルバスが便利。「星の駅」から「六甲ケーブル山上」駅までを結ぶ。

プウエーと共に、突然視界が開けて、雄大な山々と神戸の街並みが視界に。神戸港や大阪港はもちろん、よく晴れた日には、遠く紀伊半島まで見渡せる。ロープウェーを降りてからは、六甲・摩耶スカイシャトルバスが便利。「星の駅」から「六甲ケーブル山上」駅までを結ぶ。



晴れた日には、紀伊半島まで見渡すことも

- 交通のご案内
- JR・阪急・阪神・市営地下鉄 三宮駅より市バス18系統「摩耶ケーブル下駅」下車すぐ（所要時間約20分）市バス2系統「観音寺駅」下車北へ徒歩約400m（所要時間約30分）
- 阪急王子公園駅より北へ徒歩約1000m（所要時間約30分）
- JR灘駅より北へ徒歩約1500m（所要時間約45分）
- JR六甲道駅より市バス18系統「摩耶ケーブル下駅」下車すぐ（所要時間約25分）
- 阪急六甲駅より市バス18系統「摩耶ケーブル下駅」下車すぐ（所要時間約20分）市バス2系統「観音寺駅」下車北へ徒歩約400m（所要時間約30分）
- ※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

●運賃表（ ）は小人運賃

線別	ケーブル線	ロープウェー線	全区間
駅別	摩耶ケーブル駅～虹の駅間	虹の駅～星の駅間	摩耶ケーブル駅～星の駅間
片道	430円（220円）	430円（220円）	860円（430円）
往復	860円（430円）	860円（430円）	1500円（750円）

●営業ダイヤ

季節別ダイヤ	ケーブル線	ロープウェー線
	摩耶ケーブル駅：虹の駅	虹の駅：星の駅
	始発 終発（星の駅行最終）	始発 終発
春秋	3/20～7/19 平日	9:20 17:40 (17:20)
	9/1～11/30 土日祝	9:20 20:00 (19:40)
夏冬	7/20～8/31 全日	9:20 21:00 (20:40)
	12/1～3/19 全日	9:20 17:40 (17:20)

備考 運転間隔は2分毎です。乗客多数の時はピストン運転いたします。定休日第1・第3火曜日（ただし9月は無休）

Mademoiselle du Kobe

神戸のお嬢さん

キュートな知性派

中野友香さん
慶應義塾大学三回生

友香さんは、お母様、妹さんと一緒に、いつも私のネイルケアサロン、ティ・フォ・アートにお見えになります。

高校時代はイギリスへ留学され、現在は慶應義塾大学総合政策

学部で勉学に励み、何事にも積極的にチャレンジし、英検準一級、漢検二級の資格もお持ちです。

読書がお好きで、無人島に一つだけ何か持って行けるとしたら、迷わずに本を持って行く位の本好き。それにとっても自立心旺盛で、今は親元を離れ神奈川でひとり暮らしをされていますが、最近はお料理も頑張って作っています。

しゃるご様子です。将来の夢は、ニュースキャスターになる事。持ち前の集中力と明るさで、未来に向かって羽ばたいて下さいね。



推薦者
釘島 博子
ネイルアーティスト

誰からも愛される チャーミングな人

山本愛子さん
ルイ・ヴィトン ジャパン株式会社勤務

夫の弟の娘、つまり姪である愛子ちゃんは、思いやりのある優しい女性です。

私達と会食を共にする時には、さり気なく家事も率先して手伝うなど、周りの人たちに対し気配りを行き届かせる姿に、いつも感心しています。

何事も一生懸命に取り組む努力家で、中高時代にやっていた軟式

テニスでは、神戸市総体で優勝。甲南大学在学中には、単位を早く取り終え、アメリカ、フランス、イタリア、タイと海外旅行も楽しみました。

世話好きで面倒見がよく、責任感の強い彼女の周りにはいつもお友達でいっぱいです。

お勤めを始めてからは、センスの良さが更に磨かれて、ただ今、

若さ美しさ真つ盛りの愛子ちゃんです。

幸せな人生を歩むことを、祈り見守っていますよ。



推薦者
藤間 莉佳子
日本舞踊家

